

大学生のバイトテロに対する意識について

信田修吾 (22011255sn@tama.ac.jp)

1. 研究の背景と目的

現代ではインターネットの発展と共にSNSが多くの人に普及している。総務省調べによると、スマートフォンの普及率が86.8%と八割を超える状況にあり、SNSの使用率は48.8%とおよそ半分となっている。多くの人がSNSを利用している以上、SNSが持つ情報拡散力は高く、SNSと密接な関係にあるバイトテロに対する意識は、強めるべきであると考えられる。

バイトテロが起す被害というのは、とても大きく、大手企業のチェーン店での被害額が1000万を超えることもある。それとは反比例し、最近では昔ほどメディアで取り上げなくなり、今の大学生のバイトテロに対する意識が薄くなっていると考えた。

そのため、大学生のバイトテロの意識を聞き、バイトテロの危険性を理解しているかなどを明らかにする。

2. 先行研究の分析

・山下では、SNSから個人情報を特定されるリスクを研究していた。例えば本名を公開していないTwitterでも、本名を公開しているFacebookのアカウントを特定することができるかと分析している。よって、SNSの特定というのは第三者が出来てしまう環境にあるとしている。

・山口では、インターネットの炎上に対してどれほどの関心があるのか、SNSの誹謗中傷などの関心を調べている。その結果、SNSの暴言などはあまり良く思っていないことが分かっている。SNSの炎上はごく少数の人が起こしており、ほとんどの人が他人事であると考察している。

これらの先行研究を整理してみると第一に炎上について以下のような現状が分かる。

- ① SNSのアカウントの特定されやすい状況にあり、SNSが炎上した時には個人情報が特定される危険性が高いということ
- ② SNSの炎上は他人事であることが多く、実際にそういった投稿した人はほとんどいないということ

SNSの炎上に関する現状は分かったが、残っている課題として三つ存在する。

- ① SNSに炎上するような投稿してしまうということの意識
- ② 他人事である炎上が誰にでも起こって

しまう可能性が残っている

③ 炎上した後にどれほどの危険が残っているのかの危機感

炎上が自分は起こらないと考えているからこそ起こってしまう、炎上に対する危機感の欠如があると考えられる。バイトテロはSNSの炎上が内包しているため、これらの課題はバイトテロと関係あり、残っている。

3. 研究方法

多摩大学2,3年生を対象にアンケートを実施する。アンケートの方法としてはGoogleフォームを利用したデジタルな方法で集めていく。

アルバイトやバイトテロに対する意識を調査するため、アルバイトをしている人が多いと予想される2,3年生中心にアンケートを取る。アンケートの内容は、アルバイトに対する意識、バイトテロに近い行為を見たことはあるか、バイトテロに対する危機感といったものをアンケートで聞いていきたい。

4. 今後の予定と課題

アンケートの作成はほぼ終了し、後はアンケートの実施を行う。そしてアンケートの集計を行い、分析をする。前期中にアンケートが取れなかったのは残念ではあるが、その分アンケート内容をしっかり精査していく。

今後の課題としては、アンケートでの質問や、意識調査として適した質問になっているかの不安が残る。

参考文献

総務省 (デジタル利用環境・サービスの活用状況 2021)

「SNSにおける炎上リスク分析と対策システムの開発」(山下・中村・川村・鈴木・東京工業高等専門学校・北海道大学)

「ネット炎上の実態と政策的対応の考察」(山口)